

日本助産学会と日本助産婦会の役割に想う



社団法人 日本助産婦会
 事務局長 岡本喜代子

10年前の昭和62年に、大阪で日本助産学会の設立総会が開催されました。末端の準備に関わらせていただきました。その際、2席を3人で坐っていただき、会場の廊下まで熱い会員の熱気に満ち満ちていました。

十数年前より、助産婦をとりまく社会的状況は厳しいものがあり、それに対応するために日本助産学会が創立されたとうかがっております。

昭和58年までに日本看護協会の組織改革が行われ、以前各々独立して決議権を有していた保助産の3部会が統合されました。助産婦部会も助産婦職能として、みかけは変わりませんが、決議権のない、いわゆる情報交換の場ではなくなりました。保助産の数の構成比が約1.5:1:35くらいで、少数派の保健婦、助産婦の意見が通りにくくなってしまいました。特に助産婦の場合は、看護師(案)、助産士問題等と看護婦、保健婦職能と見解を異にすることが多く、どうしても、日本看護協会以外に助産婦の権利を守る団体が必要になりました。

当時の日本助産婦会はほとんど開業助産婦だけの職能団体で、勤務助産婦を積極的に受け入れる準備はできておらず必要性にかられて助産婦の学術団体として日本助産学会が創立されたとのことでした。

日本助産婦会もその後、平成元年頃から勤務助産婦を受け入れる準備をはじめ、平成7年5月10日に正式に定款に勤務助産婦部会として位置づけました。現在6000名の会員中、約4分の1の1500名が勤務助産婦で、各種委員会を中心に活発に会の活動に参加してきています。

日本助産学会の当初の目的の1つの職能団体的な役割は、それ由、現在では日本助産婦

会が担いはじめ、もう1つの学術団体としての役割が強化されつつあります。平成5年に正式に日本学術団体に認められ、助産学研究が活発に行われています。この機能的な分化の方向は、それ由、日本助産婦会の職能団体としての活動能力と切り離せないものがあると思われれます。

また、助産婦教育の問題に関しては、日本助産学会の創立母体でもありました全国助産婦教育協議会が中心に役割を担っています。

日本看護協会には、勤務助産婦の会員がほとんどなので、勤務助産婦の問題解決を担っていただきたいと思います。

それぞれの4団体が、各々の団体の会員がかかえている問題の解決に努力をしていく時、機能分化しながら協力的体制をとれば、非常に大きな力をもつと考えます。

私も非常に微力ではありますが、日本助産婦会活動を中心に、他団体との連携を大切に、助産婦のかかえている多くの問題の解決に向けて努力したいと思っています。母子保健等に関する情報が入りやすい立場にありますので、情報の問い合わせ等ご遠慮なくお申しつけ下さい。

日本助産婦会は日本助産学会、全国助産婦教育協議会の事務局とは隣同士の場所であり、今後共より日常的にも協力的体制をとりながら活動できたらと願っています。

どの団体の助産婦であれ、自らの職能の自立をめざし、母子とその家族や、全女性へのより質の高いサービスの提供という助産婦としての願いは同じです。

今後共、さらに協力的体制を強化し、midwife(いつも女性のそばに力になれる存在)として有りつづけることを願いつつ。

母子保健・助産婦業務・助産婦教育に関連する諸般の動向

1. ニュースレター18号で紹介した厚生省医療関係者審議会保健婦助産婦看護婦部会主催「看護職員の養成に関するカリキュラム等改善検討会」は、11月に報告書を提示する予定であったが、2月中旬の今日まで検討が続いている模様である。
- 1) 全国助産婦教育協議会、日本助産学会、社団法人日本助産婦会では、助産婦教育の質の維持を図るために平成7年12月15日に看護課長当てに、下記の「助産課程検討に関する要望書」を提出した。

**看護職員の養成に関するカリキュラム等改善検討会
助産課程検討に関する要望書**

厚生省健康政策局看護課
課長 久常節子殿

全国助産婦教育協議会会長 玉田 太 朗
日本助産学会理事長 近 藤 潤 子
社団法人日本助産婦会会長 多 賀 琳 子

全国助産婦教育協議会・日本助産学会・社団法人日本助産婦会は、この度の「看護職員の養成に関するカリキュラム等改善検討会」における助産婦課程の検討に際して、助産婦教育の質の維持のために次の事項を要望いたします。

1. 分娩実習の取扱い例数については現行通り学生1人につき正常産を10例以上直接取り扱うものとする。

(理由) 正常分娩介助例数10例は助産婦として必要な診断能力及び技術の習得のため最低必要な例数である
2. 1年課程の授業科目とその内容に関して「看護婦等養成所の運営に関する指導要領」に併記されたい

(理由) 現在ある助産婦教育機関の70%以上が1年課程であり、具体的教育運営上必要であり、是非併記されたい

上記要望に対し、課長は今回の検討は指定規則内での検討であり、管轄指導行政機関としては最小限の内容を示せば良いので、半年で実施できる授業科目と実施時間を記述する予定であると述べ、教育の質の向上は各教育機関で行うようにとのことであった。

2) マスコミの動向

平成8年1月25日の読売新聞に「看護職員の養成に関するカリキュラム等改善検討会」に関して「実習が減る“助産婦の卵”」の表題で、厚生省が4月から少子化で規則緩和として分娩介助例数を「10例以上」とあるのを、「10例を目安」に改めると記し、「助産婦の質の低下につながる」と心配する声を取り上げている。

2. 社団法人日本助産婦会の新しい取り組み（岡本喜代子事務局長）

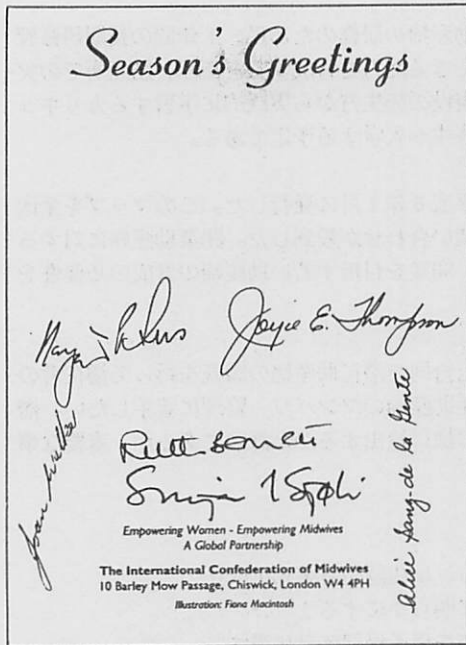
日本助産婦会では、地域母子保健活動において助産婦がより貢献できる様な体制作りを検討し、下記の新しい取り組みを行っている。

- 1) 平成8年4月より、開業助産婦を目指す若い助産婦の研修のために、1年間の長期研修課程を開始する。目標は、助産を核にした開業ができる能力を育成するとあけ、助産所での実習を中心にして、理論も助産所運営をしている現役の先生方から実践的に学習するカリキュラムを構築している。本年4月からは3名の研修生が入学する予定である。
- 2) 永年の懸案であった「全国助産院マップ」を平成8年1月に発行した。このマップを全国紙が取り上げてくれたことにより、消費者から問い合わせが殺到した。開業助産婦に対する消費者のニーズがいかに高いかを認識させられ、開業を目指す若い助産婦の育成の必要性を痛感している。
- 3) 平成6、7年にわたり全国助産婦教育協議会と合同で潜在助産婦の調査を行って潜在者の実態が明らかになりつつある。本年度からは潜在助産婦のマンパワー管理に着手したい。潜在助産婦の継続教育などにかかる必要経費をどの様に捻出するかが課題であるが、重要な事業なので実現に向けて努力していきたい。
- 4) 平成8年の関連行政に対する要望事項
 - ① 出生証明書に助産婦の氏名を記述できるよう、出生証明書書式の改正（分娩に立ち会っている助産婦数を統計的に明らかにする）
 - ② 開業助産婦が実施している新生児訪問等の数を母子保健統計に表す
- 5) 現在検討中の事項
 - ① 助産婦に求められる能力、強化すべき能力など、専門家としての能力認定の内容、教育カリキュラムなどに関して「認定制度委員会」を発足して検討を行っている。
 - ② 助産婦による助産婦の専門誌である「助産婦」の改革刷新
日本助産婦会の機関誌である「助産婦」は、世界の助産婦の活動と動向、勤務助産婦と開業助産婦の情報交換、助産の技術の伝承、助産の実践に関連する研究の紹介など、助産婦の視点からの多角的な内容を編集し、専門誌としての充実を図っている。より多くの助産婦諸姉に講読を進めたい。
- 6) 社団法人日本助産婦会の願い
専門職能団体としての日本助産婦会は、ひと昔前に地域でお産婆さんが女性とその家族を対象に、一生の相談役となって活躍していた時代を、もう一度、21世紀に取り戻し、新しい「産婆ルネッサンス」の時代をもたらしたいと切望している。どの地域においても、助産婦が自然分娩を主流にした支援を行う時代をよみがえらせたいたいものである。多くの助産婦が、日本助産婦会に入会して新規事業に参画し、社会に貢献して頂きたいと祈念している。



ICMからのお知らせ

1. ICMからのクリスマスカード



2. ICMニュースレター1996年度購読申し込みについて

ICM本部から直接購読の申し込み用紙（オレンジ色）が届きましたので、記入し易いよう日本語の訳をつけました。ご希望の方は、活字体のローマ字で記入し、選択した送金法により、①小切手が為替を同封するか、②アクセスカピサのクレジットカードのいずれかを持っている方なら、その内容を記入してカードと同じサインをして、右側の申し込み用紙のみをICM本部に直接送って下さい。〔国際担当〕

阪神淡路大震災基金と「神戸母子支援ボランティア活動」報告

ニュースレター17, 18号で阪神淡路大震災基金の募金と報告を行った後に、下記の皆様から46,000円の募金を頂きました。前回の募金181,000円と今回を合わせて、227,000円を平成7年11月24日に送金いたしました。大勢の会員の皆様からのご援助を厚く御礼申し上げます。
 <募金者名> 谷口通英 志村徳子 萩野下教子 佐藤真智子 高橋つや子 高橋清子
 玉内浩美 久川洋子 三島みどり 岩本美佐子

■立川評議員より 「第25回神戸母子ボランティア活動」報告が届きました。

— 育児、妊産婦の相談 —

期 日：平成7年11月18日（土）13:00～15:30

場 所：神戸学生青年センター（和室）

参加助産婦：3名

来所者：乳児を育児中の母親 6名と妊婦 1名

12ヶ月児母親（10回参加）、11ヶ月児母親 2名（6回、13回参加）、9ヶ月児母親（7回参加）、4ヶ月児母親（9回参加）、10ヶ月児母親（初参加）
40週妊婦（初参加）

感想：助産婦がボランティア活動を継続的に行っていることから、諸々の相談ができ色々な方と話をする事ができて、参加者は満足している様子である。

ICM スポンサー・ア・ミッドワイフ募金の報告と再募金の依頼

ニュースレター17、18号で第24回 ICM大会のスポンサー・ア・ミッドワイフ募金を行いまして、36名の方々から募金を頂き、289,884円になりました。この金額に第23回バンクーバーでの募金の残額 107,740円を付加して、397,624円になりました。しかし今回の参加費はブレコングレス・ワークショップの参加費も含めて、£3,500（約560,000円）ですので、まだ不足しております。不足額 163,000円の援助を是非会員の皆様からお願い致します。

募金の口座は下記の通りです。

口座番号：00190-8-710931
日本助産学会国際基金
一口：1,000円

1人、何口でも結構ですので、募金をお待ちしております。

今までに募金をおよせ下さった方々は、下記の通りです。ありがとうございました。

ニュースレター18号で掲載以降（受付順）

藤田 八千代	川原 淳子
鈴木 美哉子	高橋 つや子
小木曾 みよ子	徳田 淳子
月僧 厚子	瀬井 房子
浅生 慶子	青木 康子
三井 政子	竹内 美恵子
石塚 和子	賀久 はつ
佐々木 和子	内藤 和子
内山 和美	宮中 文子
坂井 明美	伊藤 千栄子
板倉 千栄子	正木 嘉代子
吐山 ムツコ	多賀 琳子



International
Confederation
of Midwives

24th
Triennial Congress

第8回日本助産学会ワークショップを開催して



学術振興委員会 竹内 美恵子

会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、日本助産学会学術振興委員会は、第8回のワークショップを平成7年12月10日(日)に京大会館において開催致しました。

本ワークショップは、1988年、初回を東京において開催し、神戸、小倉、東北、高知、北海道と順次開催地を移動しました。前回、第7回までの参加者は、258名の会員の方々の参加を得ました。本年は、京都の会員を中心に15名の方々に参加を頂き、熱盛に新たな研究課題に取り組んで頂きました。

本ワークショップを通して、さまざまな助産実践における疑問は、研究課題として発展していきました。これらのグループは、国際助産婦学会や日本助産学会にその研究成果が報告されています。

また、平成6年度より、会員の方々のために、文献検索を支援することを開始し、平成6年度は23名、39件の検索を支援しました。本年は、19名32件の文献情報を提供しました。文献検索の支援を通しての将来への期待は、会員間の情報交換がe-mail等を利用した情報ネットワークを利用できることが可能となることです。

さて、本年のワークショップは、下記のとおり実施しましたが、準備担当者である竹内が、開催日の予告等の不手際や準備不足により、35名の方々の参加希望者のご意向に応えられず、誠に申し訳なく存じる次第です。紙面を借りて深くお詫びを申し上げます。

また、ワークショップ開始当時より、基調講演の演者として、また委員として熱意あるご指導を頂いた新道幸恵先生、第6回よりご教示頂いた岸田佐智先生、ワークショップに多くのご協力を頂いた方々に深甚の敬意と感謝を申し上げて、第7回のワークショップ報告といたします。

記

日 時 : 平成7年12月10日(日) 9時~16時30分
場 所 : 京大会館 京都市左京区吉田河原町15-9

全体テーマ 助産学研究の実際

基調講演 母性役割達成理論 神戸大学医学部保健学科看護学部 新道 幸恵

■ワークショップ

- 領域 :
1. 助産学研究の基礎 研究過程
コーディネーター: 森 明子
 2. 母性心理学研究領域
コーディネーター: 新道 幸恵
 3. 思春期における研究
コーディネーター: 岸田 佐智
 4. 助産研究領域 助産診断
コーディネーター: 竹内 美恵子

第10回日本助産学会学術集会 プレコングレスミーティング

主催：よいお産を考える会 代表：堀内 成子
お産の学校 代表：杉山 次子

メインテーマ：からだの声を聴き出そう

性と生殖における女性と家族の健康を守る助産婦は、実践の中で新たな発見をすることがあります。

女性の身体が妊娠・出産を通じて、いかに巧みにその機能や構造がつけられているかを実感する事もあります。分娩時の身体の適応力や産後の泌乳のメカニズムについても、あたかも眠れる獅子が目覚めたかのごとくに見える現象があります。

妊産婦の潜在的に持つ能力をいかに最大限に引き出すかということが、実践家の助産婦に求められています。妊産婦の持つ力を知ること、それはまず謙虚に自分の「からだの声」に耳を傾けるということから始まるのではないのでしょうか。

名古屋での第10回日本助産学会学術集会の前に、プレコングレス・ミーティングを企画いたしました。「からだの声を聴き出そう」をメインテーマとして、リラクゼーションの為のアトラクション、話題提供者からの報告に引き続き、グループでのフリートーキングを持ちたいと思います。

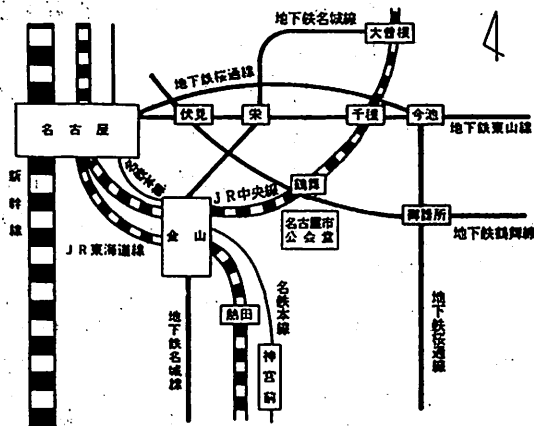
なごやかな雰囲気の中で、しかし白熱した討議を交わして学会の前に知的・体験的交流をしようではありませんか。たくさんの方々の参加をお待ち申し上げます。

- と き：1996年3月16日(土) 午前10時から12時30分まで
(尚、第10回日本助産学会のプログラムは午後1時より同会場で開催されます)
- と ころ：名古屋市公会堂
(名古屋市昭和区鶴舞一丁目1番3号 Tel 052-731-7191)
- 申し込み方法：3000円(会場費・軽食代金を含む)を下記へお振り込み下さい。
郵便振込先：00190-7-710541「よいお産を考える会」
- 問い合わせ先：お問い合わせは、FAXかハガキでお願いいたします。

〒104 東京都中央区明石町10-1
聖路加看護大学 母性研究室
堀内成子宛
FAX 03-5565-1626

◆会場への案内

- J R：中央線鶴舞駅下車
- 名古屋地下鉄：
鶴舞線鶴舞駅下車
- お車：名神高速道名古屋 I.C
名古屋高速道吹上 I.C
- 飛行機：名古屋空港から
名古屋駅まで40分



日本助産学会10周年記念行事・ 第10回学術集会開催のお知らせ

日本助産学会は、10周年を迎えました。第1日は10周年記念講演、第2日は総会並びに学術集会を開催いたします。多数の皆様の参加をお待ちしています。

理事長 近藤潤子
学術集会長 三井政子

1. 期日 1996年3月16日(土)・17日(日)
2. 会場 名古屋市公会堂
3. プログラム

第1日(3月16日)：10周年記念行事

- ☆ 記念講演 仮題「将来の助産婦の役割と教育」
 - 演者 レズリィ A. ページ 英国テムズバリ大学
 - 座長 近藤潤子 札幌医科大学保健医療学部

第2日(3月17日)：学術集会 メインテーマ “助産学の体系化に向けて”

- ☆ 会長講演 「助産診断を考える」
 - 演者 三井政子 名古屋市立大学看護短期大学部
 - 座長 竹内美恵子 徳島大学医療技術短期大学部
- ☆ ワークショップ：テーマ “助産婦の将来像”
 - 座長 堀内成子 聖路加看護大学
 - 岸田佐智 高知女子大学
 - 演者 平澤美恵子 日本赤十字看護大学
 - 松本八重子 元東京都立医療技術看護短期大学部
 - 松岡 恵 東京医科歯科大学保健衛生学科
- ☆ 一般演題：口演
- ☆ シンポジウム：テーマ “よりよい助産をめざして” —診断のプロセス—
 - 座長 新道幸恵 神戸大学医学部保健学科
 - 藤本栄子 聖隷クリストファー看護大学
 - 演者 島田啓子 金沢大学医療技術短期大学部
 - 菅真理子 神戸大学医学部付属病院
 - 石塚和子 石塚助産所

☆ 日程表

	9:00	9:30	11:00	12:00	13:30	14:00	15:00	15:30	17:00	17:30	19:30
第1日						記念行事	招請講演		懇親会		
第2日		10:10 会長	ワークショップ	口演	昼食	総会	口演	シンポジウム			

4. 学術集会参加・懇親会参加・昼食希望について

1) 参加費

10周年記念行事・学術集会参加費：8,000円（1996年1月20日以降は9,000円）

懇親会参加費：5,000円

2) 10周年記念・学術集会・懇親会の参加申し込み方法

参加を希望される方は、参加費を下記に振り込んでください。

会員以外の方のお申し込みも歓迎いたします。

郵便振込用紙は、1人で1枚を使用して申し込んでください。

なお、年会費の申し込みは別です。お間違いのないようお願いいたします。

10周年記念行事・学術集会・懇親会・昼食代の振込先

郵便振込口座 00830-4-94126

口座名称 第10回日本助産学会学術集会

参加申込みをされた方には、学術集会の討議を円滑にするために「集録」を事前にお送りする予定です。1月20日以降に振り込みをされた方は、振り込みの確認ができないことがありますので、払い込み票をご持参ください。

なお、宿泊ホテル、航空券、JR座席指定券のご希望の方は早めにお申し込みください。

3) 受付時に会員は、会員証をご提示下さい。

4) 昼食の申し込み

昼食用弁当をご希望の方は、あらかじめ学術集会参加費と同時に申し込んでください。1食1,000円、昼食券は事前にお渡ししますので、当日その券と弁当を引換えてください。

5. 会場への案内

名古屋市公会堂

ⓐ名古屋市昭和区鶴舞

一丁目1番3号

Tel 052-731-7191

JR：中央線鶴舞駅下車

名古屋地下鉄：鶴舞線

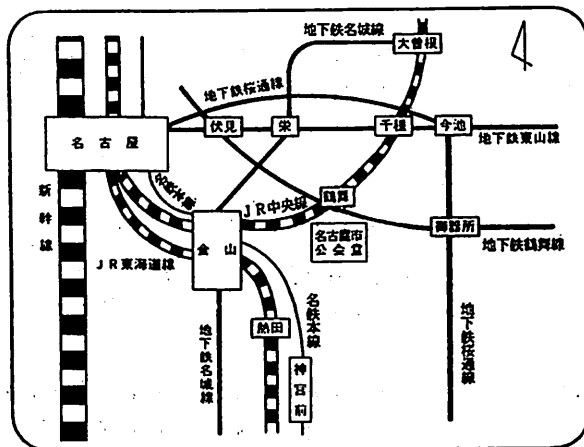
鶴舞駅下車

お車：名神高速道名古屋I.C

名古屋高速道吹上I.C

飛行機：名古屋空港から

名古屋駅まで40分



6. 連絡先

第10回日本助産学会学術集会事務局

ⓐ467 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1

名古屋市立大学看護短期大学部

TEL & FAX 052-853-8067

—— 第10回日本助産学会総会開催のお知らせ ——

会 員 各 位

第10回日本助産学会総会を下記のとおり開催いたします。万障お繰り合わせのうえご出席下さいますよう、ご案内いたします。

日本助産学会 理事長 近藤 潤子

記

1. 日 時：1996年3月17日(日) 13時00分～13時50分
2. 会 場：名古屋市公会堂 大ホール
〒466 名古屋市昭和区鶴舞1丁目1番3号
TEL 052-731-7191
3. プログラム：1) 平成7年度活動報告、収支決算報告
2) 平成8年度事業計画、収支予算案審議

*当日は、12時50分迄に指定された学会員席に着席下さい。

*当日受付に学会本部のコーナーを設けて、平成8年度会費を受付、入会案内の配布などを致します。ご利用下さい。

—— 第10回評議員会開催のお知らせ ——

評 議 員 各 位

第10回評議員会を下記のように開催いたしますので、多事他端の折りではありますが出席下さいますよう、ご案内いたします。

日本助産学会 理事長 近藤 潤子

記

1. 日 時：1996年3月16日(土) 11時15分～12時30分
2. 会 場：名古屋市公会堂 4階ホール控室
〒466 名古屋市昭和区鶴舞1丁目1番3号
TEL 052-731-7191
3. プログラム：1) 平成7年度活動報告、収支決算報告
2) 平成8年度事業計画、収支予算案審議
3) 第12回日本助産学会学術集會会長選出
4) 総会開催と提案事項について

—— 次期評議員会開催のお知らせ ——

平成7年暮れに実施した選挙により評議員として選出された方は、日本助産学会会則第12条の規定により、来る3月17日の総会において承認を受けることとなりますが、会則第10条の規定による次期役員選出のため表記の会議を開催いたします。万障お繰り合わせの上ご出席下さいませ。

記

1. 日 時：1996年3月16日(土) 19時30分～20時30分(懇親会終了後)
2. 会 場：名古屋市公会堂 4階ホール控室
〒466 名古屋市昭和区鶴舞1丁目1番3号
TEL 052-731-7191
3. 議 題：1. 次期理事・監事候補者の選出
2. その他

お 知 ら せ 

平成8年度も「国際助産婦の日」に向けて、日本看護協会、日本助産婦会、日本助産学会の三者でポスター作成を検討致し、現在印刷を依頼しております。

日本助産学会ではポスター500枚と、他にリーフレット5,000枚を印刷いたします。

各地区で「国際助産婦の日」の記念行事を行い、ポスター・リーフレットが必要な方は4月上旬までに、ポスター・リーフレットの必要枚数と送付先を事務局までお知らせ下さい。

(広報担当)



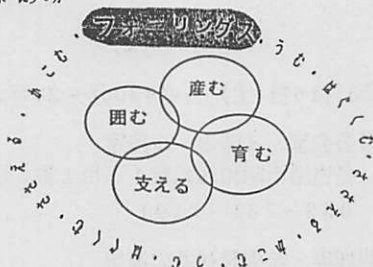
平成8年国際助産婦の日 記念行事開催のご案内

「フォーリングス」
「国際助産婦の日」愛知県第5回集会のご案内

1. 期日 1996年4月20日(土) 10:00~16:00
2. 名古屋市女性会館 名古屋市中区大井町7番地25号
地下鉄 名城線「東別院」1番出口から東へ徒歩3分
3. プログラム

〈午前〉

赤ちゃん写真コンクール
赤ちゃん用品リサイクルコーナー
お産の歴史に関する展示
ビデオ視聴コーナー
書籍販売



〈午後〉

トークショウ

テーマ 「フォーリングス」-産む・育む・支える・囲む-
演者 京都大学名誉教授 大島 清
(社)日本助産婦会愛知県支部長 武田 一子
司会 月刊誌「わたしの赤ちゃん」元編集長 豊田和子

ラウンドテーブル ディスカッション

テーマ 助産婦業務のなかの「ルチーン」を見直す
わたしは「こんなお産」がしたい
先輩助産婦と話す

写真コンクール 入賞作品発表(当日出席された出品者に参加賞)

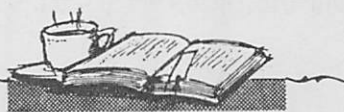
4. 参加費 500円(一般の方、学生) 1,000円(助産婦)
多数のみなさんの参加をお待ちしています。
赤ちゃんの写真・リサイクル用品の募集にもご協力お願いします。



主催 「国際助産婦の日」愛知県第5回集会実行委員会 実行委員長 武田 一子

協賛 (社)日本助産婦会愛知県支部 (社)愛知県看護協会助産婦職能 愛知県助産婦教育協議会 日本助産学会

事務局だより



*平成8年で助産学会は創立10周年を迎えます。3月16日には、10周年記念行事として英国のテームズバリー大学から招聘した、レズリイ A. ページ教授の記念講演が行われる他、公募しておりました懸賞論文や学会のロゴマークの発表があります。本学会の基盤を固めた10年を一区切りとして、次の助産学研究の躍動を図りたいものです。10周年記念行事及び学術集会に大勢の皆様参加をお待ちしております。

* ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ募金は皆様から募金を戴き、前回カナダの残額と合

わせて約40万になりました。がまだプレコングレス・ワークショップの参加費も含めると約16万不足しております。世界的視野から助産婦の力で母子保健の向上をめざし、且つ助産婦の活動や地位の向上を図ってゆきたいものです。開発途上国の助産婦1名を、本学会からの募金でICMに参加できるように皆様のご支援をお待ちしております。